

再生可能エネルギーは低炭素社会と脱原発を担えるか —次世代低コスト太陽電池開発の課題と展望—

瀬川浩司 教授（東京大学先端科学技術研究センター）



2012年3月15日（木）15:00—16:30

北海道大学創成科学研究棟5階大会議室

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>

東日本大震災の発災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故により、日本のエネルギー政策は再構築を迫られている。一方で世界的な低炭素社会への流れもあり、日本の取りうる選択肢は益々狭まってしまった。そうした中で再生可能エネルギー、とりわけ太陽光発電には大きな期待が寄せられているが、コストの問題は未解決である。2010年末には太陽光発電パネル設置量が370万kWを超えたと推定されるが、さらに飛躍的な太陽光発電の拡大普及を図るためには一層の、低コスト化が不可欠である。こうした中で次世代低コスト太陽電池の本命とされる有機系太陽電池に熱い視線が集まっている。本講演ではこれらを中心に次世代低コスト太陽電池開発の課題と展望について述べる。

問合せ先：触媒化学研究センター・大谷文章 (ohtani@cat.hokudai.ac.jp/011-706-9132)

講演者略歴：1989年 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士課程修了（工学博士）/京都大学工学部分子工学教室助手・1994年～1997年 JSTさきがけ研究21研究者（併任）・1995年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻助教授・1997年～ 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻兼担・2006年～ 東京大学先端科学技術研究センター教授・2009年～ 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者（有機系太陽電池の研究開発）・2010年4月～東京大学先端科学技術研究センター附属産学連携新エネルギー研究施設長